

サミットニュース最終号



H22. 2. 22 発行



全体会の会場は参加者でギッシリ埋まり、日頃から小地域福祉活動に取り組む皆さんの関心の高さと熱意をあらためて感じることができました。



当日は、サミットの見所・魅力や参加された方の声を速報でお伝えするサミットニュース第1号・2号が発行されました。



午後からは分科会が行われました。お互いの地域福祉活動について語り合う分科会では、参加者の活動への思い等熱い議論が繰り広げられました。



サミットのオプションプランでは、近江の福祉の源流を訪ねる大津・信楽コースと近江商人の町並み散策と障害者アート、退職男性の活躍に触れる近江八幡コースが行われました。参加者は、滋賀の福祉に触れ、趣のある町並みを楽しんでおられました。



次の開催地の島根県へサミット旗が引き継がれました。来年はみんなで島根へ・・・。



大津市逢坂学区社会福祉協議会の皆さんが、全国から来られた参加者を大津駅で出迎えました。



会場の玄関では、滋賀県内の「ゆるキャラ」やトンちゃん一隊が皆さんをお出迎えました。



大津市藤尾学区社会福祉協議会のふれあい工房で作製されている竹細工です。



琵琶湖船上でのパーティでは、レイクラブさんがヨシ笛演奏をご披露くださいました。皆さんはヨシ笛の美しい音色で1日の疲れを癒しておられました。



受付スタッフとして、大津市の雄琴学区社会福祉協議会、大石学区社会福祉協議会の皆さんにご協力いただきました。ありがとうございました！

びわこからの風

サミットの緊張感を味わってから、数ヶ月が過ぎ、最終の実行委員会(2月26日)が開かれることとなりました。事務局を担当した私がサミットの取り組みを通して感じたことは、①県内の行政職員、社協職員、ボランティア、施設職員と一緒に、半年以上かけて、作り上げてきた中で感じた「きすな」です。そして②全国、県内から2,000名の方が来られた「感動」、③サミットが成功に終わった事による「感謝」です。

今、私たちは、サミットを終えた後、この「きすな」や、「感動」「感謝」の心を何かの取り組みにつなげたいと考えています。「サミットその後委員会」を作り、検討を始めたいと思います。滋賀県内の学区・小地域福祉活動のさらなる発展のためには、何が必要か。肩のこらないもの、楽しいもの、県内のスタッフが力を出し合えるもの、そうした取り組みがどのようなものなのか、2000名から力をいただいた私たち事務局の楽しいテーマです。

K. Y